



Subaru

男声合唱団

ニュース No.246

'10.05.26

5月30日(日)  
14:00~  
定例レッスンです。  
お忘れなく!

## 合唱発表曲は「ねがい」・・・5月21日(金)・・・

□5月21(金)は、高田さんの体操、檀先生のヴォイストレーニングと指揮、森さんのピアノで新譜曲ほかをレッスンしました。団員出席は36名。



□レッスン一口メモ

▼「AMAZING GRACE」の音合わせをみっちりやりました。

▼「シルクロード」;変更譜が配布され、変更部分の音合わせをしました。

▼「しあわせは空の上に」の音合わせをしました。

□今日開かれた企画委員会で今年の合唱発表会の曲が、「ねがい」に決まりました。街の声?(委員会の発表ではない)から意見・感想を3つ。

① 合発の曲はどのような基準で選ぶのでしょうか? 審査員受けの良い点の取りやすい曲を選ぶのでしょうか? それとも、合唱団が一番歌いたい曲を選ぶのでしょうか?

今度のコンサートでは、どの曲もこれまでにない練習を積み重ねて懸命に歌いましたが、どの曲に最も力を注いだか? といえば「ねがい」ではないでしょうか? 作詞者・作曲者とも現在活躍中のトッププロであり、芸術性・テーマ性とも最も昇にふさわしい曲だと私は思います。

(N. Yさん;HP掲示板から)

② 合唱コンクールではなく、合唱発表会となっている意味は何か。それは合唱を通じて何を訴えるかに力点がおかれているからではないでしょうか。

「ねがい」はそういう意味では、連帯というキーワードで今の時勢の中で歌う意味があるのでは

ないかと思っています。賞を取ることが目的ではないと思いますので、どこの合唱団が歌っているのが、「昴」らしい表現ができればいいのではないのでしょうか。私はそのように思いますが。  
(Tさんの意見・メールから)

③ 「わたしはどう感じているか」；

5/21(金)合発の曲が「ねがい」に決まりました。私の大好きなこの曲をまたしばらく歌い続けられることになり、私は大満足です。ところがその日のレッスン後の二次会で、私の尊敬する方の一人から「この曲は何をいっているのかさっぱりわからない。」という意見を聞きました。せんえつながら、私はどう感じているかを述べさせていただきますので、参考にさせていただけたら幸いです。

「ゆれる川面に 冬の空映る 流れていくよ もひとつのねがい」

「小石を拾う 若者ひとり 気づかず踏んだ 待ち続けたねがい」

「暗い水底 凍える夜に あおざめ沈む 忘れられたねがい」

ねがいは「流され」「踏まれ」「沈んで」ゆくのです。それでも、心の奥底の無意識の領域にひそむ「ねがい」があるのです。「ねがい」の否定的な表現で、「ねがい」の強さ・深さを表現する・・・佐藤信とはにくいやつです。

「基地の街に生まれた私は、基地はずっとあるものと思っていた。」「派遣労働者としての私は、この環境で生きてゆくしかないと思っていた。」「私の難病は、ただただ耐えることしかないのだとあきらめていた。」でももしかしたら、もしかしたら・・・私が忘れようと努力してきた「岸辺に咲いた名も知らぬねがい」は実現するかもしれない。そのために、「ちいさな川に 赤い花流そ 明日もひとつ 赤い花流そ 明日もひとつ 赤い花流そ」

この曲は「ポーランドの民主化運動」を支援する音楽会のためだったらしいから、そこでのねがいは「自由で豊かなポーランド」でしょう。

でも私たちはそれにとらわれることなく、四十数人の合唱団員それぞれの「ねがい」を胸に、私たちの心で、私たちの声で歌いあげたいものです。(昴HP掲示板から；N.Yさん)



## 「男声合唱団昂・関西紫金草合唱団 10周年コンサート」によせて

大阪府庁うたごえ合唱団 小池 哲夫

去る4月25日、大阪NHKホールに1300人の観客で、充実度いっばいの演奏をされたみなさんに、まず敬意を表します。両合唱団の歌い手、指揮者の本並美德氏・檀美知生氏、そして3人のピアニストや二胡奏者の努力と、集中力はすごいものでした。

今回の演奏会は「うたと平和とそして希望と」をテーマに紫金草物語の全曲演奏、男声合唱団昂の演奏、そして合同での組曲「無言館」の演奏という企画でした。

まず一部の「紫金草物語」は全国の仲間と120名で取り組まれ、この10年間に6回もの中国での平和友好コンサートを成功させておられるように、今日の中国の経済的な躍進のなかで、新しい日中関係を作り上げていく上で、日本が侵略戦争の事実と向き合いながら、人々の間で友好を深めていける中心になれる重要な歌だと改めて思いました。

二部の「昂」の演奏は二年前シンフォニーホールの演奏会と比べてテナー（とくにT1）が充実して、声もよくそろってきました。また、合同合唱も含めてですが、前は一本調子のものでありましたが、うたにいろいろな情感が出て、表現力をつけられたように思います。発声や発語、フレーズの歌い方の訓練を積まれているのに加え、中国公演など、たくさんの経験を積まれて、演奏者に深みが加わったように感じました。このコンサートを通じて、みなさんは大阪の、あるいは日本のうたごえ運動を代表するコーラスに成長されたと思います。これからも躍進を期待します。どの演奏も、よく集中していいいなものですが、印象に残った演奏としては林光の「なぜ」は、核兵器廃絶と朝鮮侵略・在日朝鮮人のみなさんのことをいっしょに歌った数少ない作品だと思いますが、「溶けてよじれた一升瓶」のことばに込められた思いをよく伝えておられました。あと、「I've got six pence」は、労働者の歌らしく明るく、楽天的な感じが出て好演でした。

三部の組曲「無言館」は、ミュージカル合唱団「TERRA」の友情出演も得て140名の合同で取り組まれ、戦没画学生たちの一人ひとりの人生と思いへの共感、これらの作品をずっと保管してこられた関係者のみなさんの思いがよく表現されていて、まるで登場人物が次々に出てきて劇をしているような（檀美知生氏のテノールソロの力もあったでしょうけど）気持ちになりました。どこの合唱団でも演奏できる歌ではないように思いますが、これからも大事にうたってほしい作品だと思いました。

全体としてはすごく堪能できたのですが、欲を言うと、少し味が濃すぎて、内容があり過ぎたためにかえって個々の曲の印象が薄れたのではと思いました。特に「紫金草」と「無言館」を二つとも全曲歌われたのはどんなものでしょう。いっぺんに二つ聴けたので良かったのですが、ちょっとおいしいものが出すぎたパーティのような感じでした。それから、男声合唱は力強く堂々としたものだけでなく、繊細な情感ややわらかさ、あたたかさでつつむような演奏曲や、日本の美しい風景・ひとびとのやさしい心を歌ったうたもたくさんあって（多田武彦さんのような）、恋の歌、ちょっとなまめかしいうたなども、自由に表現できるようになれば、並み居る連盟の合唱団にも引けをとらない、文字通り日本を代表する男声合唱団になれると思います。

今後のご奮闘を期待します。素敵な演奏をありがとうございました。

※小池様貴重な励ましのおことばをありがとうございました。



「昂」「関西紫金草合唱団」創立の功労者に贈られた10周年感謝記念品  
(鳩・紫金草唐草文フォトスタンド)  
額・絵とも昂団員(2名)制作